

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	びじょん（児発）			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 26日		～	2026年 1月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42名	(回答者数)	24名
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日		～	2026年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	電話やメッセージアプリ等を活用し、いつでも気軽に相談できる環境を整えています。対面時・メッセージ内を問わず継続的に声掛けを行うことで、「困りごとの相談」だけでなく「子どもの成長の喜び」も日常的に共有し合える、関係性を築いています。	活動部屋から気が散る原因となる玩具や棚をあえて配置せず、刺激をコントロールすることで、子どもたちが目の前の活動や課題に落ち着いて取り組める空間づくり（環境の構造化）を意識的に行っています。	現在の行き届いた相談対応や細やかなリマインド連絡を事業所の共通の強みとするため、対応の仕方の工夫や連絡の目安をスタッフみんなで共有し、誰が担当しても保護者の方に寄り添った対応ができる体制を整えます。
2	他業種・他職種を招いた外部研修を積極的に実施し、スタッフの専門性向上を図っています。また、栄養面でのアドバイスなど、生活全般を視野に入れた多角的な支援を提供できる体制が整っています。	日々の連絡に加え、定期面談の調整や、学校行事に伴う振替休日の利用確認など、スケジュールに対する細やかなフォロー（リマインド連絡等）を徹底し、保護者との信頼関係構築と、家庭と事業所間のスムーズな連携を図っています。	研修で得た学びや栄養のアドバイスの工夫をスタッフみんなで勉強し合い、子どもたちそれぞれの支援計画へしっかりと取り入れることで、日々のサポートの質をさらに高めていきます。
3	外部研修によるスタッフの専門性向上に加え、栄養面のアドバイスなど多角的なアプローチを行える点が強みです。単なる預かりにとどまらず、ご家庭と密に連携しながら子どもの健やかな育ちを真ん中に置いた、安心感のある伴走型サポートを徹底しています。	外部研修を通じてスタッフの専門性を高めるだけでなく、栄養面のアドバイスなども丁寧に行うことで、単にお子様をお預かりするだけでなく、ご家庭と一緒に子どものすこやかな育ちを真ん中に置いた、安心感のあるサポートを意識しています。	今後も定期的な外部研修の受講によりスタッフの専門性を絶えずアップデートするとともに、栄養面や生活面でのアドバイス事例を事業所内で共有・蓄積します。ご家庭とのコミュニケーション機会をさらに増やし、個々のニーズに寄り添ったよりきめ細やかなオーダーメイドの支援体制を強化していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた事業所、地域との交流やつながりという点では、改善が必要だと考えます。	近隣のコミュニティや自治会、地域の他の施設などとの具体的な接点がこれまでになく、どのようにして地域とのつながりを作っていけばよいか、具体的なきっかけや方法を見出せていなかったことが挙げられます。	いきなり大きなイベントを行うのではなく、まずは近隣の自治会や学校、関係機関への定期的なご挨拶や、事業所の活動を知ってもらえるような案内（広報・チラシなど）をお届けすることから始め、地域の方々に私たちの事業所を身近に感じてもらう取り組みを進めます。
2	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）やご家族が参加できる講座などの情報提供を行っていないこと。	ご家族向けにわかりやすく紹介するための知識や、事前の準備が、まだ十分に整っていないことが要因です。	保護者の方への個別のフォローだけでなく、今後はご家族向けの支援プログラム（ペアレントトレーニング等）や、気軽に参加できる講座などの情報提供・ご紹介にも力を入れ、ご家庭へのサポートをさらに充実させていきたいです。
3	不適切行為に伴う職場混乱による、評価シート等の実施時期の遅れ	不適切行為を行う職員らが在籍していた時期、現場の混乱や業務の停滞が生じたため、本来のスケジュール通りに評価シート等の手続きを進めることが困難だったためです。	原因となった職員の退職により環境が正常化したため、今後は新体制のもとでスケジュール管理を徹底し、評価シート等の定期的な実施・回収を速やかに軌道に乗せます。